

福井県衛生環境研究センター研究員活動報告 概要

演題名	明日の地環研を考える（フリーディスカッション）
学会名	第 42 回日本水環境学会年会（全国環境研協議会研究集会）
発表者名	坪内 彰（所長）
開催場所	名古屋市（名古屋大学）
開催日時	平成 2 0 年 3 月 2 1 日（金）
発表内容	<p>[開催趣旨]</p> <p>第 42 回日本水環境学会において，全環研協議会企画部会と共同で「明日の地環研を考える」をテーマとした研究集会を開催します．</p> <p>昭和 40 年代以降，公害の監視を目的とし各県，政令市で地環研が設立されました．しかし，公害問題が改善された近年，地環研を取り巻く状況は大きく変化してきています．民間分析機関の充実，大学等における環境分野への拡充により，検査業務や研究業務のアウトソーシングが図られています．自治体財政の逼迫を理由に研究費，人員削減，分析機器更新の延長などが実施される中地環研の存在意義が問われているのではないのでしょうか．</p> <p>一方，環境問題は公害から廃棄物，生態系，超微量有害化学物質，地球温暖化に関連するもの等に変化，多様化してきているとともに，地域住民の環境への関心も高まってきています．</p> <p>住民や行政が期待する地環研とは今後どうあるべきか共に考えましょう．皆様の積極的な参加をお待ちしております．</p> <p>[内容]</p> <p>部 講演</p> <p>座長 駒井幸雄（大阪工業大学）</p> <p>1 地環研の現状と展望 - 地域に根ざした知と技術の拠点をめざして - 古武家善成（兵庫県・健環研セ）</p> <p>2 地域の水環境を考える - サンゴ礁海域の水質指針 - 宮城俊彦（沖縄県・衛環研）</p> <p>3 地方研の分析業務のアウトソーシング化とデータのクロスチェックについて 高田文子（愛知県・環調セ）</p> <p>部 フリーディスカッション「明日の地環研を考える」</p> <p>座長 坪内彰（福井県衛生環境研究センター）</p>